

Oracle® Database

クイック・インストール・ガイド

10g リリース 2 (10.2) for Microsoft Windows (32-bit)

部品番号 : B50694-01

2008 年 8 月

このマニュアルでは、32 ビット Windows システムに Oracle Database Client 製品をすばやくインストールする方法を説明します。次の内容について説明します。

1. このマニュアルの概要
2. 管理者権限を使用したシステムへのログイン
3. ハードウェア要件の確認
4. ソフトウェア要件の確認
5. Oracle Database ソフトウェアのインストール
6. Oracle Database Companion CD からの製品のインストール
7. インストール後の作業
8. 追加情報
9. ドキュメントのアクセシビリティについて

1 このマニュアルの概要

このマニュアルでは、デフォルトのインストール・オプションを使用して Oracle Database を新しい Oracle ホームにインストールする方法を説明します。

このマニュアルで説明するタスク

このマニュアルでは、次のタスクを説明します。

- Oracle Database をサポートするためのシステムの構成
- ローカル・ファイル・システムへの Oracle Database ソフトウェアのインストール
- データベース・ファイルの格納にローカル・ファイル・システムを使用する汎用 Oracle Database の構成
- システムの Oracle Database のパフォーマンスを向上させる Oracle Database Companion CD からのソフトウェアのインストール

正しくインストールされた場合の結果

Oracle Database のインストールに成功すると、次の状態になります。

- 作成したデータベースおよびデフォルトの Oracle Net リスナー・プロセスがシステム上で稼働します。
- Oracle Enterprise Manager Database Control および iSQL*Plus が稼働中となり、Web ブラウザからアクセスできます。
- Oracle Cluster Synchronization Services (CSS) デーモンの単一ノード・バージョンが稼働中となり、システムの起動時に自動的に起動するように構成されます。

ORACLE®

Copyright © 2008, Oracle.
All rights reserved.

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

このマニュアルで説明しないタスク

このマニュアルでは、次のタスクの実行方法は説明しません。

- すでに Oracle ソフトウェアが存在するシステムへのソフトウェアのインストール
- Oracle Clusterware および Oracle Real Application Clusters (RAC) のインストール
- 自動ストレージ管理 (ASM) のインストール
- Oracle ホームのクローニング
- Enterprise Manager の電子メール通知または自動バックアップの有効化
- データベース記憶域としての自動ストレージ管理 (ASM) または RAW デバイスなどの代替記憶域の使用

追加インストール情報の入手先

このマニュアルで説明されていない情報を含む Oracle Database コンポーネントのインストール方法の詳細は、次のいずれかのマニュアルを参照してください。

- ソフトウェアを単一システムにインストールする場合、または自動ストレージ管理 (ASM) をインストールする場合は、『Oracle Database インストール・ガイド』を参照してください。
- Oracle Real Application Clusters (RAC) をインストールする場合は、ご使用のプラットフォームの『Oracle Real Application Clusters インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

このマニュアルでは、RAC インストールの前提条件である Oracle Clusterware のインストール方法も説明しています。単一インスタンスの Oracle Database インストールを使用して Oracle Clusterware を使用することもできます。

この2つのマニュアルは、Oracle Database のインストール・メディアに収録されています。これらのマニュアルにアクセスするには、Web ブラウザを使用して、DVD の database ディレクトリにある welcome.htm ファイルを開き、「ドキュメント」タブを選択します。

Oracle Database Companion CD コンポーネントのインストール方法の詳細は、次のマニュアルのいずれかを参照してください。

- 『Oracle Database Companion CD インストール・ガイド』
- 『Oracle Database Companion CD クイック・インストール・ガイド』

これらのマニュアルは、Oracle Database のインストール・メディアの companion ディレクトリにあります。

2 管理者権限を使用したシステムへのログイン

Oracle コンポーネントをインストールするコンピュータに、Administrators グループのメンバーとしてログオンします。Primary Domain Controller (PDC) または Backup Domain Controller (BDC) にインストールする場合は、Domain Administrators グループのメンバーとしてログオンします。

3 ハードウェア要件の確認

Oracle Database には次のハードウェア・コンポーネントが必要です。

表 1 ハードウェア要件

要件	最小値
物理メモリー (RAM)	256MB 以上、512MB 推奨
仮想メモリー	RAM の 2 倍

表 1 ハードウェア要件 (続き)

要件	最小値
ディスク領域	基本インストール・タイプの合計: 2.04GB 拡張インストール・タイプの合計: 1.94GB 詳細は、表を参照してください。
ビデオ・アダプタ	256 色
プロセッサ	550MHz 以上

ハード・ディスク領域の要件

表に NTFS の領域要件を示します。初期データベースには 1.03GB のディスク領域が必要です。この表の数値には、初期データベースが含まれています。FAT32 の領域要件は若干大きくなります。

表 2 NTFS のディスク領域要件

インストール・タイプ	TEMP 領域	C:\Program Files \Oracle	Oracle ホーム	データ・ファイル*	合計
基本インストール	125MB	3.1MB	905MB	1.03GB	2.04GB
拡張インストール: Enterprise Edition	125MB	3.1MB	905MB **	950MB **	1.94GB **
拡張インストール: Standard Edition	125MB	3.1MB	905MB **	950MB **	1.94GB **
拡張インストール: Personal Edition	125MB	3.1MB	905MB **	950MB **	1.94GB **

* ORACLE_BASE ディレクトリの admin、flash_recovery_area および oradata ディレクトリの内容を参照してください。

** このサイズは、言語や追加コンポーネントなど、選択したインストール・オプションによって大きくなる場合があります。自動バックアップを有効にして Oracle Database をインストールする場合は、データファイル・ディスク領域用に少なくとも 2GB を余分に含めてください。

関連項目: 『Oracle Database プラットフォーム・ガイド』の NTFS ファイル・システムおよび Windows レジストリ権限に関する項

システムがこれらの要件を満たしていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. 物理的な RAM のサイズを確認します。たとえば、Windows 2003 を使用しているコンピュータの場合は、Windows の「コントロールパネル」で「システム」を開き、「全般」タブを選択します。システムにインストールされている物理的な RAM のサイズが必要なサイズに満たない場合は、追加のメモリーをインストールしてから続行してください。
2. 構成されている仮想メモリー（ページング・ファイル・サイズとも呼ばれます）のサイズを確認します。たとえば、Windows 2003 を使用しているコンピュータの場合は、「コントロールパネル」の「システム」を開き、「詳細」タブを選択して、「パフォーマンス」セクションの「設定」をクリックします。次に、「詳細」タブを選択します。仮想メモリーは、「仮想メモリ」セクションに表示されます。
追加の仮想メモリーの構成方法は、必要に応じてご使用のオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

3. システムの空きディスク領域の量を確認します。たとえば、Windows 2003 を使用しているコンピュータの場合は、「マイ コンピュータ」を開き、Oracle ソフトウェアをインストールするドライブを右クリックして、「プロパティ」を選択します。
4. temp ディレクトリで使用できるディスク領域の量を確認します。これは、空きディスク領域の合計量から、インストールされる Oracle ソフトウェアに必要な量を引いた値になります。

temp ディレクトリで使用できるディスク領域が 125MB 未満の場合は、まず不要なファイルをすべて削除してください。削除後も temp ディスク領域が 125MB 未満の場合は、TEMP または TMP 環境変数を別のハード・ドライブを指すように設定します。たとえば、Windows 2003 を使用しているコンピュータの場合は、「コントロールパネル」の「システム」を開き、「詳細」タブを選択して、「環境変数」をクリックします。

4 ソフトウェア要件の確認

表に Oracle Database のソフトウェア要件を示します。

表 3 ソフトウェア要件

要件	値
システム・アーキテクチャ	<p>プロセッサ: Intel (x86)、AMD64 および Intel EM64T</p> <p>注意: Oracle Database for Windows には、32 ビット (x86)、64 ビット (Itanium) および 64 ビット (x64) の各バージョンがあります。このインストール・ガイドで説明する 32 ビット・データベース・バージョンは、x86 または x64 ハードウェアの 32 ビット・バージョンの Windows で実行されます。64 ビット Windows (x64) で 32 ビットの Oracle Database を使用する場合、証明書に制限があります。詳細は、Oracle MetaLink を参照してください。</p> <p>http://metalink.oracle.com</p>
オペレーティング・システム	<p>Oracle Database for Windows は、次のオペレーティング・システムでサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ サービス・パック 1 以上を適用した Windows 2000。Terminal Services および Microsoft Windows 2000 MultiLanguage Edition (MLE) を含むすべてのエディションがサポートされます。 ■ Windows Server 2003: すべてのエディション ■ Windows XP Professional <p>Windows NT はサポートされていません。</p> <p>Windows Multilingual User Interface Pack は、Windows Server 2003 および Windows XP Professional でサポートされています。</p>

表 3 ソフトウェア要件 (続き)

要件	値
コンパイラ	<p>Pro*Cobol は、次の 2 つのコンパイラでテストおよび認証されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ACUCOBOL-GT バージョン 6.2 ■ Micro Focus Net Express 4.0 <p>Object Oriented COBOL (OOCOBOL) 仕様はサポートされていません。</p> <p>次のコンポーネントは、Microsoft Visual C++ .NET 2002 7.0 および Microsoft Visual C++ .NET 2003 7.1 コンパイラでサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle C++ Call Interface ■ Oracle Call Interface ■ GNU Compiler Collection (GCC) ■ 外部コールアウト ■ PL/SQL のネイティブ・コンパイル ■ XDK <p>注意: プライマリ・コンパイラとして GNU Compiler Collection を使用する場合は、構成手順について『Oracle Database インストレーション・ガイド』のプライマリ・コンパイラとしての GNU Compiler Collection の構成に関する項を参照してください。</p>
ネットワーク・プロトコル	<p>Oracle Net Foundation レイヤーでは、次の業界標準のネットワーク・プロトコルと通信するために、Oracle プロトコル・サポートが使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ TCP/IP ■ SSL 付き TCP/IP ■ 名前付きパイプ

5 Oracle Database ソフトウェアのインストール

Oracle Database ソフトウェアをインストールするには、次の手順を実行します。

1. 複数の別名を使用するマルチホーム・コンピュータに Oracle Database をインストールする場合は、「コントロールパネル」の「システム」を使用して、ORACLE_HOSTNAME システム環境変数を作成します。Oracle Database をインストールするコンピュータのホスト名を指すように、この変数を設定します。
2. Oracle Database のインストール・メディアを挿入して、database ディレクトリに移動します。または、インストール・ファイルをダウンロードまたはコピーしたディレクトリに移動します。

サポートされているすべての Windows プラットフォームに Oracle Database をインストールする場合、同じインストール・メディアを使用します。

3. setup.exe をダブルクリックして、Oracle Universal Installer を起動します。
4. 「ようこそ」ウィンドウで「基本インストール」または「拡張インストール」を選択し、必要に応じてプロンプトに応答します。

関連項目: 基本および拡張インストール方法の詳細は、『Oracle Database インストレーション・ガイド』の第 1 章を参照してください。

7ページの表に示すように、その後表示されるウィンドウは、選択したインストール方法によって異なります。ウィンドウが表示される順序は、選択したオプションによって異なります。

5. 次のガイドラインを使用して、インストールを完了します。

- Oracle9i または以前のソフトウェアを含む既存の Oracle ホームに Oracle Database 10g リリース 2 (10.2) ソフトウェアをインストールしないでください。
- Oracle Database 10g リリース 2 (10.2) クライアント・ソフトウェアをすでに含む Oracle ホーム・ディレクトリに Oracle Database 10g リリース 2 (10.2) をインストールした場合、リスナーは作成されません。リスナーを作成するには、インストール後に Oracle Net コンフィギュレーション・アシスタントをインストールして実行します。Oracle Database の前に Administrator クライアントがインストールされている場合、Oracle Net コンフィギュレーション・アシスタントはすでにインストールされています。
- Oracle Universal Installer ウィンドウに表示される手順に従います。追加情報が必要な場合は、「ヘルプ」をクリックします。

- パスワードのプロンプトが表示された場合は、次のガイドラインを使用します。

パスワードの長さは 4 ～ 30 文字になるようにします。

パスワードの文字にデータベース・キャラクタ・セットを使用します。これには、アンダースコア (_)、ドル記号 (\$) および # 記号の文字が含まれます。

パスワードの先頭は数字にしないでください。

パスワードにユーザー名を使用しないでください。

パスワードに Oracle の予約語を使用しないでください。

SYS アカウント・パスワードに `change_on_install` を使用しないでください。

SYSTEM アカウント・パスワードに `manager` を使用しないでください。

SYSMAN アカウント・パスワードに `sysman` を使用しないでください。

DBSNMP アカウント・パスワードに `dbsnmp` を使用しないでください。

すべてのアカウントに同じパスワードを使用する場合、`change_on_install`、`manager`、`sysman` または `dbsnmp` をパスワードとして使用しないでください。

パスワードには、1 文字以上の英字、数字および句読点文字を含めてください。

`welcome`、`account`、`database` および `user` など、単純または明白な単語をパスワードに使用しないでください。

注意： 指定するパスワードを覚えておく必要があります。

- オラクル社カスタマ・サポート・センターが提供するパッチを使用する場合を除き、Java Runtime Environment (JRE) を変更しないでください。Oracle Universal Installer では、Oracle が提供するバージョンの JRE が自動的にインストールされます。このバージョンは、Oracle Universal Installer および複数の Oracle アシスタントを実行するために必要です。
- ソフトウェアのインストール時またはリンク時にエラーが発生した場合、トラブルシューティングに関する情報は、『Oracle Database インストレーション・ガイド』の付録 G を参照してください。
- データベース・コンフィギュレーション・アシスタントおよび Oracle Net コンフィギュレーション・アシスタントを対話型モードで実行するインストール・タ

イブを選択した場合、データベースおよびネットワークの構成に関する詳細情報を指定する必要があります。

データベース・コンフィギュレーション・アシスタントまたは Oracle Net コンフィギュレーション・アシスタントを対話型モードで使用するときにアシスタントが必要な場合は、任意のウィンドウの「ヘルプ」をクリックします。

注意： デフォルト・インストールを選択した場合、データベース・コンフィギュレーション・アシスタントおよび Oracle Net コンフィギュレーション・アシスタントは非対話型で実行されます。

6. 構成ツールが完了したら、「終了」をクリックし、「はい」をクリックして、Oracle Universal Installer を終了します。
7. Oracle Enterprise Manager Database Control で Web ブラウザを開き、インストール時に作成したユーザー名とパスワードを入力します。

SYS、SYSTEM または SYSMAN としてログインできます。SYS としてログインした場合は、AS SYSDBA に接続する必要があります。インストール時にアカウントに指定したパスワードを入力します。
8. インストール・プロセスで作成された一時ファイルを削除する場合は、オプションで OraInstalldate_time ディレクトリを削除します。OraInstalldate_time ディレクトリは、約 45MB のファイルを保持しています。このディレクトリは、TEMP 環境変数によって設定された場所に作成されます。

コンピュータを再起動すると、OraInstalldate_time ディレクトリも削除されません。
9. Oracle Database のインストール後に実行する必要があるインストール後のタスクの詳細は、『Oracle Database インストレーション・ガイド』の第 4 章を参照してください。

表 4 Oracle Universal Installer の画面

画面	推奨するアクション
インストール方法の選択	次のいずれかを選択し、「次へ」をクリックします。 <ul style="list-style-type: none">■ 基本インストール： 最小限の入力で Oracle Database をすばやくインストールできます。これによりソフトウェアがインストールされ、このウィンドウで指定した情報を使用して、オプションで汎用データベースが作成されます。■ 拡張インストール： アカウントごとの個別のパスワードの作成、特定のタイプの初期データベース（トランザクション処理またはデータ・ウェアハウス・システム用など）の作成、異なる言語グループの指定など、より複雑なインストールを実行できます。
インストール・タイプの選択	「Enterprise Edition」、「Standard Edition」、「Personal Edition」または「カスタム」を選択します。「次へ」をクリックします。
ホームの詳細の指定	「インストール先」セクションで、デフォルト値を受け入れるか、Oracle コンポーネントをインストールする Oracle ホーム名およびディレクトリ・パスを入力します。ディレクトリ・パスには空白を含めないでください。 「次へ」をクリックします。

表 4 Oracle Universal Installer の画面 (続き)

画面	推奨するアクション
使用可能な製品コンポーネント	「インストール・タイプ」に「カスタム」を選択した場合、このウィンドウが表示されます。リストから選択して、「次へ」をクリックします。各コンポーネントの詳細は、コンポーネント名の上にマウスを置くと表示されます。
製品固有の前提条件の確認	このウィンドウを使用して、システムがインストールの最小要件を満たしていることを確認します。「次へ」をクリックします。
既存のデータベースをアップグレードします。	<p>更新可能な以前のバージョンの Oracle Database または自動ストレージ管理がインストールされている場合、このウィンドウが表示されます。自動ストレージ管理が実行されている配置済のデータベース・インストールの場合、ASM が自動的にアップグレードされます。</p> <p>アップグレードする場合は「はい」、アップグレードしない場合は「いいえ」をクリックします。「はい」をクリックすると、「サマリー」ウィンドウが表示されます。</p> <p>アップグレードの詳細は、『Oracle Database アップグレード・ガイド』を参照してください。</p>
構成オプションの選択	<p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ データベースの作成: 「汎用目的」、「トランザクション処理」、「データ・ウェアハウス」のいずれかのデータベース・タイプを使用してデータベースを作成する場合、このオプションを選択します。「詳細」オプションを選択すると、データベース作成の構成オプションを詳細に設定するためにデータベース・コンフィギュレーション・アシスタントが起動されます。 ■ 自動ストレージ管理の構成: 自動ストレージ管理インスタンスのみを作成する場合、このオプションを選択します。ASM インスタンスを作成するには、ASM SYS パスワードを指定する必要があります。このパスワードを指定すると、Oracle Universal Installer を使用して ASM ディスク・グループを作成できます。この Oracle Universal Installer セッションの完了後、Oracle Universal Installer を再実行して、ASM を使用する 1 つ以上の Oracle データベースをインストールおよび構成できます。 ■ データベース・ソフトウェアのみインストール: データベース・ソフトウェアのみをインストールし、データベースの作成または自動ストレージ管理の構成を行わない場合、このオプションを選択します。
ASM 管理オプションの選択	「構成オプションの選択」ウィンドウから「自動ストレージ管理の構成」を選択し、Oracle Enterprise Manager 10g Grid Control がインストールされている場合、このウィンドウが表示されます。Grid Control を使用して自動ストレージ管理を管理するかどうかによって、「はい」または「いいえ」を選択します。「はい」を選択した場合は、使用する Enterprise Management エージェントのリストから選択します。

表 4 Oracle Universal Installer の画面 (続き)

画面	推奨するアクション
自動ストレージ管理の構成	<p>「構成オプションの選択」ウィンドウから「自動ストレージ管理の構成」を選択した場合は表示されます。ディスク・グループ名を入力します。ディスク・グループ・リストには、候補ディスクとメンバー・ディスクの両方が表示されます。「候補の表示」または「すべて表示」をクリックすると、表示をフィルタできます。次に、ディスク・グループの冗長性レベルとメンバー・ディスクを選択します。</p> <p>「冗長性レベル」については、次のいずれかを選択します。デフォルトは標準の冗長性です。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 高: ディスク・グループの内容は、デフォルトで3方向にミラー化されます。高い冗長性のディスク・グループを作成するには、少なくとも3つの障害グループ(3つのデバイスの最小値)を指定します。■ 標準: デフォルトでは、ディスク・グループのデータ・ファイルは2方向にミラー化され、制御ファイルは3方向にミラー化されます。3方向にミラー化された、またはミラー化されていない特定のファイルを作成できます。標準の冗長性のディスク・グループを作成するには、2方向にミラー化するために少なくとも2つの障害グループ(2つのデバイスの最小値)を指定します。■ 外部: ASM では、ディスク・グループの内容はミラー化されません。このオプションを選択するのは、1) 独自のデータ保護を提供する RAID デバイスなどのデバイスがディスク・グループに含まれる場合、または2) 適切なバックアップ計画がすでに機能しているなど、データベースがデータに連続してアクセスする必要がない場合です。
データベース構成の選択	<p>ニーズを満たすのに最適なデータベース構成(「汎用目的」、「トランザクション処理」、「データ・ウェアハウス」、「詳細」)を選択します。</p> <p>これらの事前に構成されたデータベース・タイプの詳細は、Oracle Universal Installer またはデータベース・コンフィギュレーション・アシスタントが提供するオンライン・ヘルプを参照してください。</p> <p>「次へ」をクリックします。</p>

6 Oracle Database Companion CD からの製品のインストール

Oracle Database Companion CD には、Oracle Database のパフォーマンスを向上させたり、Oracle Database を補完する製品が含まれています。ほとんどのインストールについて、Companion CD から Oracle Database 10g 製品をインストールすることをお勧めします。

関連項目:

- 『Oracle Database Companion CD インストレーション・ガイド』
- 『Oracle Database Companion CD クイック・インストール・ガイド』

7 インストール後の作業

Oracle Database のこのリリースについて理解するために、次のタスクを実行することをお勧めします。

- Web ブラウザから Oracle Enterprise Manager Database Control にログインします。
Oracle Enterprise Manager Database Control は、1 つの Oracle データベースの管理に使用できる Web ベースのアプリケーションです。Database Control のデフォルトの URL は次のとおりです。
`http://host.domain:port/em/`
ユーザー名 SYSMAN を使用してログインします。Oracle Database のインストール時にこのユーザーに対して指定したパスワードを使用します。
- 使用するコンポーネントに応じて、必須およびオプションのインストール後の手順について、『Oracle Database インストレーション・ガイド』の第 4 章を参照してください。
- Oracle Database を使用して起動する方法の詳細は、『Oracle Database インストレーション・ガイド』の第 5 章を参照してください。
- Oracle Enterprise Manager Database Control を使用してデータベースを管理する方法の詳細は、『Oracle Database 2 日でデータベース管理者』を参照してください。
このマニュアルは、新しい Oracle DBA を対象としており、Oracle Enterprise Manager Database Control を使用して、Oracle データベース・インストールのあらゆる面を管理する方法を説明します。また、インストール時に構成しなかった可能性がある、電子メール通知および自動バックアップを使用可能にする方法も説明しています。

8 追加情報

この項では、次の内容について説明します。

- [製品のライセンス](#)
- [サポートおよびサービス](#)

製品のライセンス

このメディア・パックに含まれている製品は、トライアル・ライセンス契約に基づき、30 日間、インストールおよび評価できます。ただし、30 日間の評価期間後もいずれかの製品の使用を継続する場合、プログラム・ライセンスをご購入いただく必要があります。

サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

Oracle サポート・サービス オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/index.html>

製品マニュアル 製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/index.html>

研修およびトレーニング 研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=3

その他の情報 オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/index.html>

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/index.html>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

9 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかしスクリーン・リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。

Oracle Database クイック・インストール・ガイド, 10g リリース 2 (10.2) for Microsoft Windows (32-bit)
部品番号: B50694-01

Oracle Database Quick Installation Guide, 10g Release 2 (10.2) for Microsoft Windows (32-bit)

原本部品番号: B14318-01

Copyright © 2008, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム (ソフトウェアおよびドキュメントを含む) には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段 (電子的または機械的)、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行 (製品またはサービスの提供、保証義務を含む) に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。